

【問 題】

ギデンズの構造化理論について説明せよ。

【解答例】

従来の社会学の理論は、構造—機能主義のように個人に外在している「社会システム」を強調する立場と、現象学的社会学のように個人の主観を強調する立場の 2 つがあり、それぞれが自己の正当性を主張してきた。ギデンズは、このような従来の社会理論が現実の個人や社会について「一面しか見ていない」とし、それらを超克することを目指した。

ギデンズは、人間の行為を規定するものを「構造」とよび、こうした構造が「規則」と「資源」からなる、という。

規則は、我々が行為をおこなう際に従う「行為の仕方」である。たとえば、我々は他者と会話をするとき、既存の語彙や文法に従わなければお互いに意味を通じ合うことは出来ない。

こうしたものを「規則」とよぶ。一方、資源とは、こうした行為の際に動員されるある種の実態を指す。これには貨幣、道具のような「配分的資源」と地位や権限のような「授権的資源」があるが、人間の行為はこうした資源によって規定されている。

規則と資源からなる「構造」は、こうして現実の行為を可能にするが、しかし行為は構造の「単なる結果」ではなく、行為の実践がまた構造を再規定していくのである。

これがギデンズの構造化理論の内容である。こうした構造化理論の意図は、構造が行為の実践の条件であるとともに、またその結果でもあること。つまり社会過程は構造を条件として成立するが、構造は社会過程を通じて再生産される、ということにある。これをギデンズは構造と行為の「二重性」と呼ぶ。

このようにギデンズの構造化理論は、従来の社会学理論の難点を批判的に乗り越えることを意図したもののなのである。

以上